
R-Book 2015 序文

米国小児科学会（AAP）感染症委員会発行の *Red Book* の翻訳版である *R-Book* を発行したのは *Red Book* 25th（2000年版）からでした。本書は *Red Book* のすべてを逐語訳したものではなく（たとえば *Red Book* 編集委員会である APA 感染症委員会の紹介、まえがき等は省略）、また米国と日本の環境や医療事情の相違などから米国とは異なっている日本の情報などを随時追記するようになっています（[図表](#) 網掛け）。AAP はこれを了承し、しかし翻訳版に対して *Red Book* という名称は使用しないという意向があり、本書の表題を *R-Book* としてスタートさせました。その後翻訳担当者の強い意見・意志、そして日本小児医事出版社ご理解のもとに、*Red Book* が改訂されるごと、以下のように *R-Book* の改訂も行いました。

Red Book 25th 2000：平成 14（2002）年11月 *R-Book* 2000（第1版）

Red Book 26th 2003：平成 17（2005）年 8月 *R-Book* 2003（第2版）

Red Book 27th 2006：平成 19（2007）年 9月 *R-Book* 2006（第3版）

Red Book 28th 2009：平成 23（2011）年 3月 *R-Book* 2009（第4版）

Red Book 29th 2012：平成 25（2013）年10月 *R-Book* 2012（第5版）

平成 22（2010）年 6月には *Red Book Atlas* の翻訳版 *R-Book Atlas* も発行。

そして今回、*Red Book* 30th 2015 の発行に伴って *R-Book* も 2015 として第 6 版を発行できることになりました。これまで本書を利用して頂いた皆さま方のお蔭と厚く御礼申し上げます。*Red Book* 2012 は Appendix や牽引などを含んで 1058 ページでしたが、2015 年版は 1158 ページに増大し、*R-Book* もさらに厚みを増しています。また今回は 30 版として *Red Book* の表紙には「1938-2015 30th EDITION」という大きいロゴが誇らしげに掲げられています。ちなみに 1938 年発行の *Red Book* 第 1 版は 8 ページでした。

2015 年版の主な変更点について冒頭の「*Red Book* 2015 主な改訂点」にまとめてありますが、予防接種、抗菌薬、各論、そして各種ガイドラインなど各所で更新がなされ、それらの資料となるウェブサイトの掲載が充実しています。ことに今回は分子診断について新たに記載しているものが多くみられます。*Red Book* には 338 名もの小児感染症にかかわる第一人者が協力者として名前を連ねていますが、「主な変更点」の冒頭には「2015 年版では最初のレビュー担当者の 62% が新たに任命されている。このことは *Red Book* の内容が常に新鮮な目で検証されていることを確実にするものである。」とあります。確かに記述がこれまでと異なったところも多々見られます。

引き続き本書について国内の小児の診療、保健、予防に携わる多くの方々にも広く利用して頂ければ幸いです。

この *Red Book* 翻訳にあたり、企画当初から多大なご尽力をいただいた庵原俊昭先生が、2015 年版のご自分の担当部分の原稿をお送りいただいた後、まもなく逝去されました。庵原先生のご功績を称え、心から哀悼の意を表させていただきます。

最後に改訂版の発行を今回も積極的にすすめて頂いた日本小児医事出版社の関係者の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

翻訳者を代表して：川崎市健康安全研究所 岡部信彦